



2020年9月期第3四半期 決算説明資料

株式会社 EduLab
東証マザーズ (4427.T)

2020年8月7日

EduLab.

第3四半期決算概況	2
2020年9月期第3四半期実績	3
新型コロナウイルス感染症の影響	9
2020年9月期通期見通し	11
3Qの事業ハイライト	13
事業トピックス①	16
事業トピックス②	20
事業トピックス③	22

1. 2020年9月期3Q決算概況

- 売上高 5,209百万円（前年同期比 19.5%増）
- 営業利益 705百万円（同 1.2%増）
- 経常利益 557百万円（同 21.3%増）
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 387百万円（同 33.5%増）
 - EPS 43.58円

2. 2020年9月期3Qの事業動向

- e-Testing/e-Learning事業では、英ナビ！広告及び多教科プラットフォーム収入、CASEC、新事業のテストセンター、EDS買収等が寄与し増収（61.7%増）。
- テスト運営・受託事業は、令和2年度全国学力・学習状況調査の採点業務中止等があり、売上・利益ともに対前年比ではマイナスとなった。
- 費用面で人件費・減価償却費・地代家賃等の固定費増加は発生したものの、営業・経常・四半期純利益はそれぞれ1.2%、21.3%、33.5%の増益となった。

3. 2020年9月期通期見通し

- 通期見通しは新型コロナウイルス感染症の影響も加味した上で期初予想を維持
 - 売上高 8,450百万円（前年比 34.7%増）
 - 営業利益 1,800百万円（同 23.1%増）
 - 経常利益 1,570百万円（同 31.8%増）
 - 親会社株主に帰属する当期純利益 1,110百万円（同 41.0%増）

2020年9月期 第3四半期実績

損益計算書

(単位：百万円)

	19年9月期 3Q	20年9月期 3Q	対前年同期比
売上高	4,357	5,209	+ 19.5%
EBITDA	1,060	1,216	+ 14.7%
EBITDA率	24.3%	23.4%	△ 0.9pt
営業利益	697	705	+ 1.2%
営業利益率	16.0%	13.5%	△ 2.5pt
経常利益	460	557	+ 21.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	289	387	+ 33.5%

- **売上高**はe-Testing/e-Learning事業が牽引し、対前年同期比**19.5%増**となる**約52億円**を達成
- 販売管理費の増加等を吸収して**営業利益**は前年同期比**1.2%増**となる**約7億円**となった
- 増加した費用の主な内訳は以下の通り
 - 連結範囲拡大等を含む人員増等による人件費の増加（対前年比約303百万円増加、約1,151百万円に着地）
 - 主にソフトウェア開発投資に伴う減価償却費の増加（対前年比約148百万円増加、約511百万円に着地）
 - 事務所移転に伴う地代家賃の増加等（対前年比約141百万円増加、約342百万円に着地）
- 為替レートの変動により前期に発生した為替差損が為替差益に転じたことや、株式公開費用の解消等により営業外費用が縮小し、**経常利益・四半期純利益**はそれぞれ**21.3%増、33.5%増**となった。

セグメント別の売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

事業セグメント	19年9月期 3Q	20年9月期 3Q	対前年同期比
e-Testing/ e-Learning	売上高	2,294	3,709 + 61.7%
	セグメント 損益	999	1,358 + 36.0%
テスト運営 ・受託	売上高	2,063	1,499 △ 27.3%
	セグメント 損益	435	217 △ 50.0%
全社費用	△737	△871	134百万円 増加

■ e-Testing/e-Learning事業

- 英ナビ！広告や多教科プラットフォーム利用収入の増加、CASEC、新事業のテストセンター、EDS買収等が寄与し、**61.7%の増収**
- セグメント損益は、人件費増加、AI関連を含むソフトウェア開発投資等に伴う減価償却費の増加（約128百万円増加し、約449百万円に着地）等があったものの**36.0%の増益**

■ テスト運営・受託事業

- 主に文部科学省による令和2年度全国学力・学習状況調査の実施が4月に中止されたことにより、売上高は前年同期比27.3%減
- セグメント損益は、人件費及びソフトウェア開発投資に伴う減価償却費の増加等の影響もあり、前年同期比50.0%減

■ 全社費用

- 連結範囲拡大等を含む人員増等による人件費の増加等

サブセグメント別の売上高

(単位：百万円)

事業セグメント	サブセグメント	19年9月期 3Q	20年9月期 3Q	対前年同期比
e-Testing/ e-Learning	英ナビ・ スタディギ ア	1,258	1,625	+ 29.2%
	英検Jr.	142	147	+ 3.6%
	TEAP CBT	73	77	+ 4.7%
	CASEC	275	303	+ 10.1%
	テストシステム 提供等	544	1,556	+ 185.7%

■ 英ナビ・スタディギア

- 4月以降のライセンス料改定によるライセンス収入の増加（約90百万円）、英ナビ！広告や多教科プラットフォーム利用収入の増加（約277百万円。内、EDS買収効果123百万円）が売上拡大に貢献し、**29.2%の増収**

■ 英検Jr.

- ペーパー版・オンライン版の英検Jr.は減少も、Z会・NTTドコモ向けJrアプリ開発等により微増

■ TEAP CBT

- スピーキング・ライティングテストの採点業務が引き続き増加

■ CASEC

- 企業向け・個人大学向け共に受注・販売が拡大し増収

■ テストシステム提供等

- 6月よりサービスを開始したテストセンター事業が本格的に立ち上がる（約806百万円）
- AIを活用した自動採点や文字認識サービス等の外部販売も拡大し増収に貢献（前年同期比**191.7%増**となる約204百万円）

営業外損益

(単位：百万円)

	19年9月期 3Q	20年9月期 3Q	対前年増減額
営業外収益	68	48	△ 19
為替差益	—	9	9
投資有価証券売却益	67	23	△ 43
その他	1	16	15
営業外費用	305	196	109
為替差損	66	—	66
投資有価証券評価損	27	28	△ 0
ファンド運営費	79	81	△ 2
株式公開費用	34	—	34
融資・借換関連費用	35	31	4
支払利息	27	27	△ 0
その他	34	27	7

■ 3Qまでの主な変動は、主に前年度の為替変動による為替差損や株式公開費用などに起因する。

- 為替差損益は前年同期に66百万円の為替差損を計上したが、今期3Qは円安基調のため9百万円の為替差益となった
- 投資有価証券売却益は、Authessの売却益23百万円を実現したが、前年同期にTOPICAおよびCodeMonkeyの売却益67百万円を計上していたため、今期3Qは減益となり、投資有価証券評価損は28百万円を計上
 - ListenWise (21百万円)
 - TOPICA (6百万円)
- 前年同期に34百万円の株式公開費用を計上したが、今期は解消されている

(単位：百万円)

	2019年 9月末	2020年 6月末	増減額
流動資産	9,159	9,697	+ 537
現預金	6,179	7,948	+ 1,769
その他	2,980	1,748	△1,231
固定資産	3,679	5,146	+ 1,467
ソフトウェア	2,054	2,707	+ 652
投資有価証券等	703	759	+ 56
その他	921	1,679	+ 757
繰延資産	14	9	△ 4
資産 合計	12,853	14,853	+ 1,999
流動負債	4,499	4,057	△ 442
有利子負債	3,360	2,502	△ 857
その他	1,139	1,554	+ 414
固定負債	1,562	3,540	+ 1,978
有利子負債	1,526	3,447	+ 1,920
その他	35	93	+ 58
負債 計	6,061	7,597	+ 1,535
純資産 計	6,792	7,255	+ 463
負債純資産 合計	12,853	14,853	+ 1,999

- 現金及び預金が増加、受取手形及び売掛金が減少したこと等により、流動資産は537百万円増加
- 固定資産は前連結会計年度末より1,467百万円増加。主な内訳はソフトウェア等で652百万円、テストセンター関連で428百万円（内、敷金143百万円、除ソフトウェア）、教育デジタルソリューションズ社の買収にともなう無形固定資産（含のれん）で327百万円増加
- テストセンター事業の拡大に向けた借入による資金調達等により、有利子負債合計は1,062百万円増加
- EDS買収による無形固定資産の増加は4月1日の買収日時時点で327百万円で、平均で8.65年に渡り償却予定
- 令和2年度全国学力・学習状況調査関連の入金等により、現預金残高は対前期末で1,769百万円増加。景況観の不透明さが増していることを受け、引き続き手元資金を厚めに確保していく予定

新型コロナウイルス感染症の影響

■ テスト運営・受託事業

- 令和2年度全国学力・学習状況調査の中止の影響は、今期3Qまででほぼ織り込み済み
- 他の受託案件については延期・中止による影響は軽微

■ e-Testing/e-Learning事業

- テストセンター関連
 - ✓ 6月から本格運用開始、6月～7月の「英検S-CBT」受験者数は累計6万人突破（7月12日時点で63,190人）
 - ✓ 契約の再締結により変動部分を縮小したことにより、開始時期（4月）のずれによる当期業績への影響なし
 - ✓ 直営拠点の拡大により当初予算比で売上拡大基調
- 英ナビ！広告・プラットフォーム関連
 - ✓ 2019年10月～3月と比較し、4月～6月の広告出稿は大幅に減速
 - ✓ 想定していた一部プラットフォーム売上について来期へのズレ込みを織り込む
- AI関連プロジェクト
 - ✓ AI-OCR「DEEP READ」においてはいくつかのプロジェクトについて、完了時期が翌年度にずれ込む可能性が発生している（20-30百万円程度）
 - ✓ オンライン学習の需要が高まる中でAIを活用したオンライン試験監督システムへの引き合いが拡大し開発を加速

2020年9月期 通期見通し

2020年9月期3Q P&L（累計）と通期予想に対する進捗

（単位：百万円）

	20年9月期 3Q (実)	20年9月期通期 (予)
売上高	5,209	8,450
営業利益	705	1,800
営業利益率	13.5%	21.3%
経常利益	557	1,570
親会社株主に帰属する 当期純利益	387	1,110

- 3Qについては当期予想どおり推移しており、新型コロナウイルス感染症の影響を加味した上で**通期業績予想については変更なし**

3Qの事業ハイライト

「スタディギア for EIKEN」大幅リニューアル

- 大学入試において需要の高い英検 準1級レベルに相当する学習コンテンツを追加
- AIを活用したアダプティブ・ラーニングを搭載



インドにてアダプティブテスト「OneUp」提供開始

- インド国内市場に向けた、アダプティブ・テストを搭載したオンラインのテスト・プラットフォームを提供開始（PC/スマートフォン対応）
- インドの幼稚園から高校までのレベルを網羅
- 科学と数学のテストを提供

「数学者を召喚したらイケメンだった」無料配信

- 「1学期をとりもどせ」キャンペーン
 - 新型コロナウイルス感染拡大による休校などで学習の遅れが出ている中学生を支援
 - オンライン数学講義動画を無料配信（6月2日～30日）



旺文社との合併会社設立

- 第5世代型オンライン教育プラットフォームの構築に向け、旺文社との合併会社を設立
 - 社会人・大学生を対象としたハイエンド人材の育成を目的に次世代型オンラインスクール運営
 - グローバルパスレベルの英語力の最短取得を意識した幼児期からの一貫したプログラム展開

オンライン試験監督システム提供開始

- AIを活用したオンライン試験監督システム「Check Point Z」の提供を開始
 - AIと人によるダブルチェックにより、厳密な本人確認や不正行為のチェックを実現
 - 大学入試・検定試験などハイクラスな試験でも、在宅での受験が可能に
 - 在宅受験可能な「英検」CBTサービス提供に向け、英検協会と共同開発を開始
 - 旺文社と連携、大学向けサービス展開を開始
 - CASECにオンライン試験監督システム実装


ウェブカメラで受験者を
ビデオ撮影


AIを使って顔を特定


AIを使って
不正がないか分析




AIを使って目線を特定

インド「SmartCloud」の株式取得

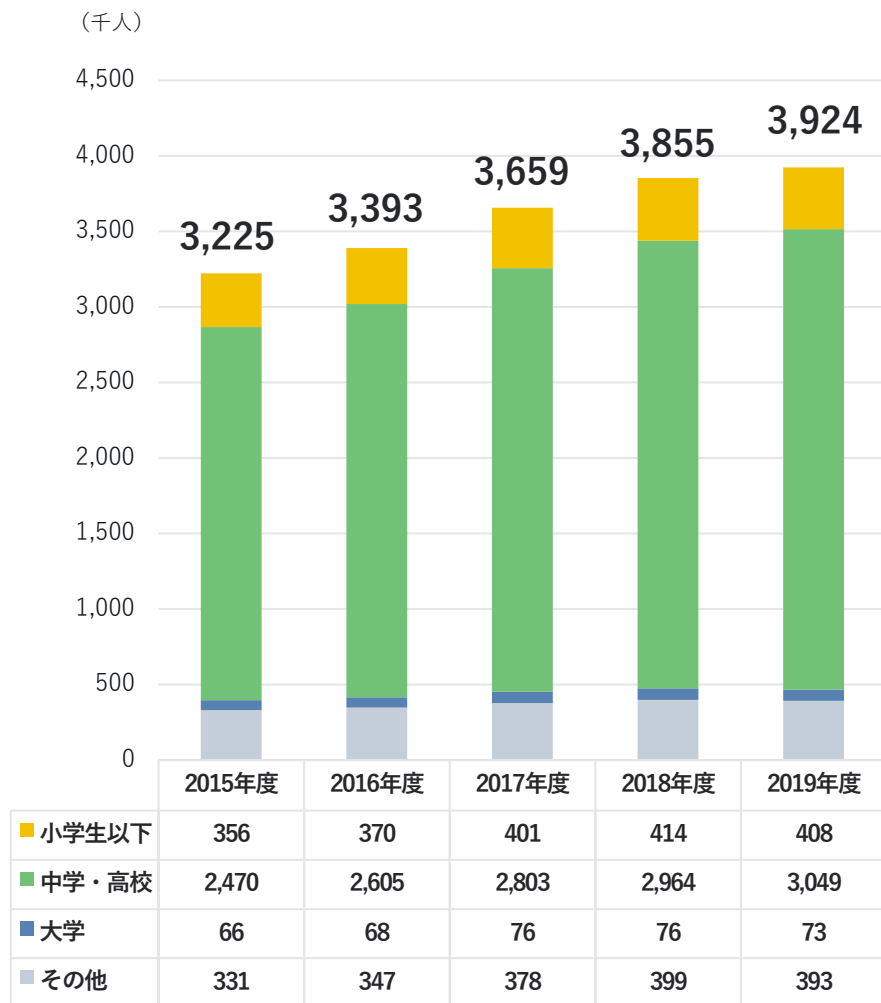
- インドでブティック型ITサービスを提供する「SmartCloud」の株式の過半数を取得
 - EduLabグループ内のビジネスアウトソーシングモデルの効率化。コスト削減のさらなる加速
 - ITアウトソーシング業界における外部クライアントのニーズ取り込み
 - 内部クライアント・外部クライアント双方にAI・機械学習の開発とサポートサービスを提供

ウイングアーク1st社「SPA」との連携

- 「DEEP READ」オンプレミス版を、文書データ活用ソリューション「SPA」に連携
 - 安全性の高いネットワーク環境で、重要情報を含む手書き文書も瞬時にデータ化
 - 機密情報・個人情報を多く扱う金融業や公共セクターに対しサービス提供を拡大

事業トピックス① テストセンター事業

英検志願者数 推移



■ 英検の志願者数は引き続き増加傾向

- 引き続き中高生を中心に英検受験者は増加
- 2019年度の受験者数は**392.4万人** (YoY +1.8%)

■ テストセンター事業

- 「英検S-CBT」 (4技能1日完結) 及び「英検CBT」のテストセンター型受験促進に向け、**2020年6月より全国で本格運用を開始**



「英検S-CBT」（4技能1日完結）及び「英検CBT」のテストセンター型受験 2020年6月から本格運用を開始

■ テストセンター運用状況

- 全国のテストセンターで本格運用開始
 - ✓ 2020年6月6日（日）から原則として**毎週土・日**に実施
 - ※**英検S-CBT**は主に直営会場において平日・祝日にも試験日を設定
- 「英検S-CBT」累計受験者数 **6万人突破**
 - ✓ 6月から7月にかけて、英検S-CBTの累計受験者は 63,190人に（7月12日時点）

■ 直営会場は今期2Qに引き続き出店加速

- 現時点の会場数
 - ✓ 直営：11拠点 委託：約140 拠点
- 設備投資
 - ✓ 今期3Qまでで461百万円（うち敷金144百万円）
- 他の検定も当社テストセンターにて実施の検討が進む

■ 新型コロナウイルス感染症予防対策

- ガイドラインに則り以下の対策を実施中
 - ✓ 試験監督者及び受験者の健康要件（海外渡航歴、体温、体調不良等）の確認
 - ✓ 受験者の手指消毒剤の利用、試験間の消毒剤を使用した清掃、換気、等

テストセンター新宿会場にて、「英検S-CBT」について英検協会がアンケートを実施

9割が概ね「満足」、「また受験したい」と回答

英検S-CBTを受験した感想をお聞かせください。



今後も英検S-CBTを受験したいと思いますか。



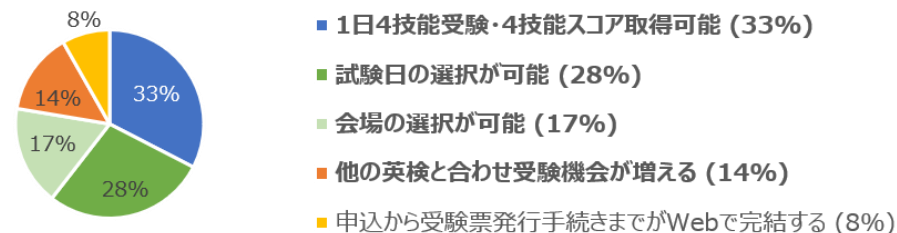
受験の目的：大学や高校等の入試活用のため

今回英検S-CBTを受験しようと思ったきっかけは何ですか。

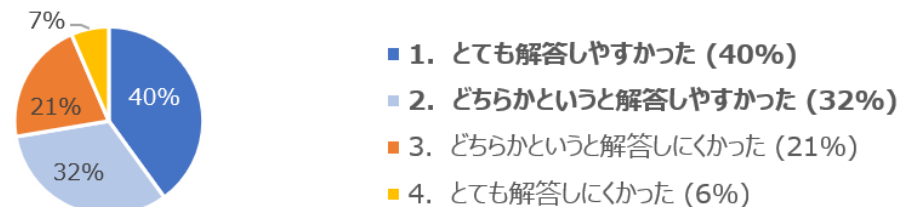


1日で4技能受験、試験日・会場を選択できる点を評価

申込の際、どのような点にメリットを感じましたか。



スピーキング試験（ヘッドセットで問題を聞きマイクに回答を吹き込む）はどう感じましたか。

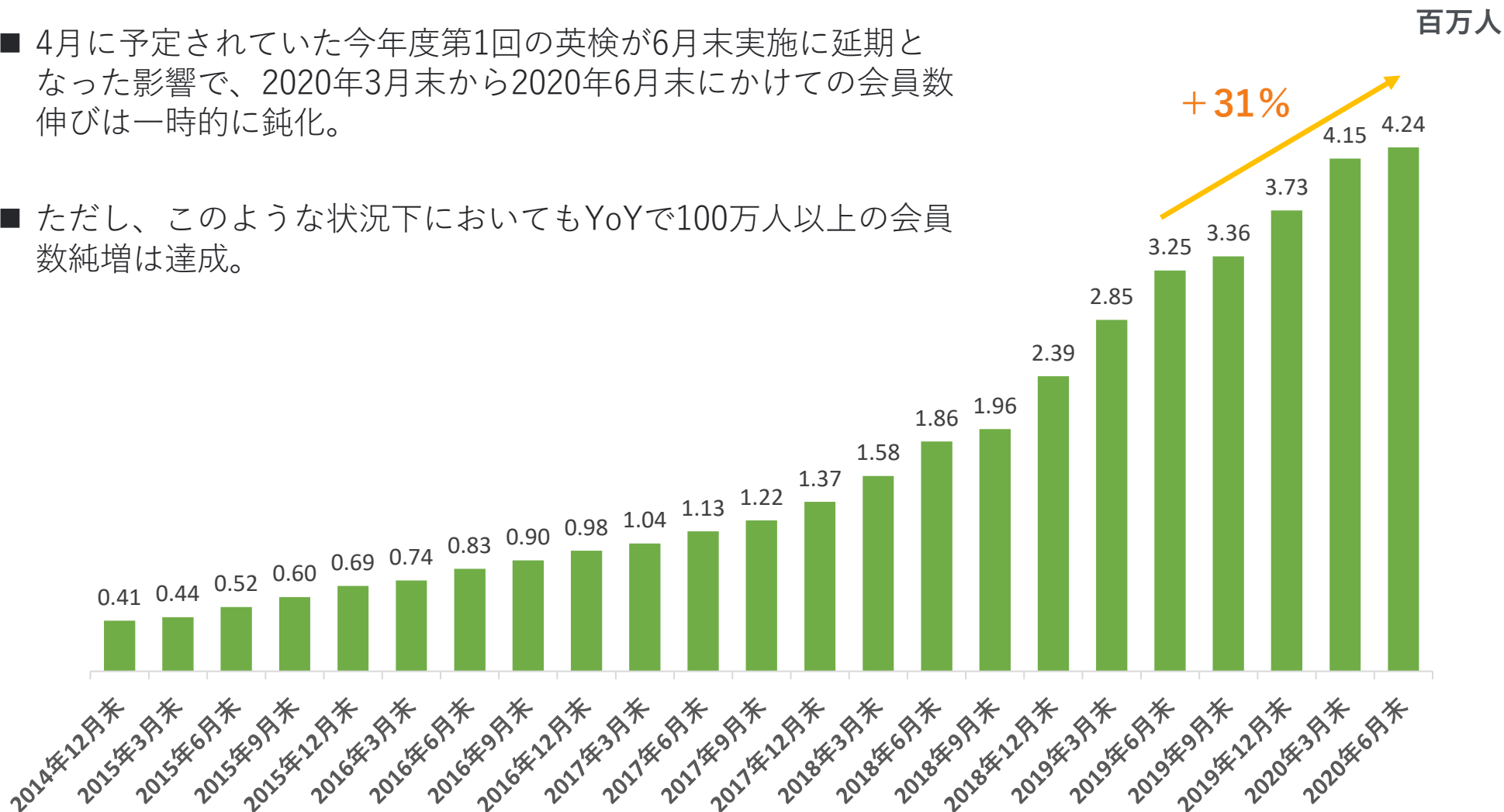


ライティング試験（解答を手書きする方式）はどう感じましたか。



事業トピックス② プラットフォーム事業

- 4月に予定されていた今年度第1回の英検が6月末実施に延期となった影響で、2020年3月末から2020年6月末にかけての会員数伸びは一時的に鈍化。
- ただし、このような状況下においてもYoYで100万人以上の会員数純増は達成。



事業トピックス③

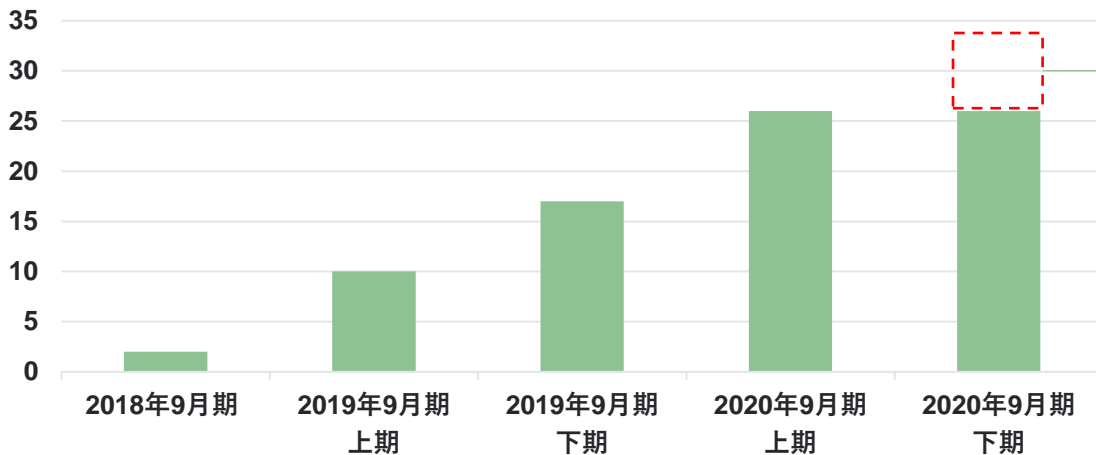
AI関連事業

前期に引き続き、複数のプロジェクトにてDEEP READが本格稼働
 トライアルから着実に運用フェーズへの移行が加速
 無償トライアルも実施中だが、有償トライアル・案件数も着実に増加

■ 延べ案件数の推移

有償案件数		2018年9月期	2019年9月期	2020年度(3Qまで)
有償案件数	本格稼働案件数 (ランニングで売上)	2	17	30
	トライアル・カスタマイズ 等案件数 (スポットで売上)	6	24	41
無償案件数	トライアル実施数	44	94	173

■ 半期ごとの稼働案件数の推移



凡そ3か月~半年間の期間をかけ、
 無償トライアル案件は約50%程度の
案件が有償案件化へ

代理店や連携サービスによる案件の
 拡大が順調に推移中

2020年度下期中に、前年度比
 200%の稼働案件数をを目指す

セキュアな在宅受験を可能にする、オンライン試験監督システムをリリース 多数の試験実施団体、大学での導入検討がはじまる

■ 概要

試験実施中の受験者の様子やPCの操作ログ等を全て記録し、AIと人によりそれらをチェックすることで、テスト受験者の受験中の様子を厳密に確認することが可能となるシステム

■ 具体案件例

在宅で「英検」CBTが受験可能となる
新サービス提供に関するプレスリリース



大正大学におけるオンライン受験、AI試験監督の活用の発表



- 本資料は、株式会社EduLabの業績等について、株式会社EduLabによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。
- これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- 株式会社EduLabの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。
- 本資料における将来展望に関する表明は、本資料開示時点（2020年8月7日現在）において利用可能な情報に基づいて株式会社EduLabによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。